問 消防課 ☎85・0479

大丈夫ですか？住宅用火災警報器

住宅用火災警報器の設置が義務づけられてから５年以上が経過しました。
メーカーによっては、そろそろ電池交換が必要になります。
火災から命を守るために、日ごろから警報器の点検とお手入れをしましょう。

年に1回は、点検とお手入れを！

■ 点検をしましょう

年に1回は作動テストを行ってください。また、初めて警報器を設置したときや設置場所を変更した場合には、必ず点検をしてください。

■ お手入れをしましょう

警報器に、くもの巣やほこりがつくと火災の煙を感知しにくくなるとともに誤作動の原因になります。ほこりなどを乾いた布でふき取りましょう。その際、シンナーなどは使用しないでください。

電池と本体の交換期限のご確認を！

■ 電池切れにご注意を

電池タイプの警報器は電池交換が必要です。音やランプで交換時期を知らせてくれるものもあります。

■ 本体の寿命は？

警報器本体も、センサーなどの寿命により交換が必要になる場合があります。10年を目安に交換してください。

※電池の寿命や点検方法、本体の交換期限は、メーカーや機種によって異なるため、くわしくは取扱説明書で確認してください。

Q 住宅用火災警報器ってどんなもの？

A 家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、知らせてくれる機器です。

住宅用火災警報器は、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発して火災の発生を知らせてくれる機器です。火災発生時の逃げ遅れを防ぐことができます。

みんなでeco やってみたらニコっ! 瀬戸の川をのぞいてみると…

問 環境課 ☎88・2671

森にも水にも恵まれた瀬戸市には、さまざまな生き物が暮らしています。その中には、元々この地域にいなかった“外来生物”も住んでいることをご存知ですか?

例えば「ミシシッピアカミミガメ」というカメは、アメリカが原産のカメ。小さな個体は「ミドリガメ」という名前でペットショップなどで売られています。非常に成長が早いため、飼いきれなくなって川や池に放してしまうケースが後を絶ちません。分布は全国的に広がっており、瀬戸市の川でもたくさん見られるようになりました。在来のカメの住処やエサを奪うといった問題があります。

外来生物は、人間生活と密接に関わりを持っていることが多く、この問題を解決するには一人ひとりの理解と対応が必要です。どんな生き物でも責任をもって最後まで飼いましょう。

▲ミシシッピアカミミガメ
写真出展：環境省ホームページ

ホームページ
外来生物法 検索

大地震に備えて 52項目の防災訓練を実施

9/1(日)

9月1日の「防災の日」に、南海トラフの巨大地震を想定した瀬戸市総合防災訓練を幡山中学校運動場で実施しました。強い日差しの中、幡山中学校の生徒169人、瀬戸窯業高校の生徒3人、地域の住民の方など、計1,035人が参加しました。

巨大地震の発生時に、被害の防止・軽減ができることを目的として52項目もの防災訓練を実施。皆さん真剣に取り組んでいました。

負傷者を担架で運ぶ「救出訓練」

バケツリレーによる「消火訓練」

土のうの作り方や積み上げ方を学ぶ「水防訓練」

家庭にある雑誌やネクタイなどを利用した「応急救護訓練」

第82回せともの祭 39万人の人出でにぎわう

9/14(土)・15(日)

PICK UP! 表紙関連記事

瀬戸染付焼の実演に興味津々！

中学校が元気いっぱいに販売！

やきもののまち瀬戸市で恒例の「せともの祭」が行われ、39万人もの人出でにぎわいました。

人気の「せともの大廉売市」では、掘り出し物やお値打ち品を求める大勢の買い物客でにぎわいました。地元の長根小・水無瀬中・本山中の子どもたちも廉売市を開催。大きな声で元気いっぱいに呼びかけをしていました。

また、青の広場では、伝統的工芸品「瀬戸染付焼」の染付実演も行われ、初めて見る家族連れの方々は興味津々で見ていました。パレードも行われ、ミスせともの3人は人力車に乗って沿道の方々の声援に笑顔で応えていました。(表紙写真)